

## 花 組

1 **TOP HAT** '22年 演出：齋藤吉正 主演：柚香光、星風まどか。フレッド・アステアとジンジャー・ロジャースが共演したハリウッド映画「TOP HAT」をベースに、2011年にロンドン・ウエストエンドで舞台化されロングランヒットした人気ミュージカルの宝塚版。宝塚では、2015年に朝夏まなと、実咲凜音で日本初演。誘って来た相手を友人の夫だと勘違いしたところから始まるすれ違いラブコメディ。フレッド・アステアを尊敬する柚香光の正にはまり役で、星風まどかと踊る「チーク・トゥ・チーク♪」は往年の名シーンを彷彿とさせる躍動感。それにしても柚香光は燕尾とシルクハットが似合う。

2 **元禄バロックロック\*** ★ '22年 演出：谷貴矢 主演：柚香光、星風まどか。忠臣蔵をベースにした、タイムループ・ファンタジー。舞台装置や道具、衣装がSF時代劇の古風だけど未来的な世界観をうまく表現している。特に星風まどかが演じるキラの衣装やかつらのセンスは抜群！ 忠臣蔵と言う男中心の物語の中で、キラと言う存在がなんとも魅惑的な色香を醸し出し、彼女に魅了されるクロノスケがお釈迦様の掌の上で踊らされる孫悟空のようで可愛くさえ感じられる。ラスト銀橋でのアドリブは柚香と星風のイチャイチャ感に観ている方が照れる。

3 **NICE WORK IF YOU CAN GET IT** '21年 演出：原田諒 主演：柚香光、華優希。ブロードウェイの名作ミュージカルの宝塚版。金持ちでプレイボーイのジミーと、酒の密輸を企てるギャングの一味ビリーが巻き起こすハチャメチャ・ラブコメディ。タップダンスでの協演など、「はいからさんが通る」とは一味違った柚香光と華優希の新境地が見られる。

4 **はいからさんが通る** ★★ '20年 演出：小柳奈穂子 主演：柚香光、華優希。大和和紀原作の少女漫画の舞台化。軍服姿の少尉「伊集院忍」をたおやかに演じる柚香光の美しさと、おきゃんでハイカラな「花村紅緒」をエネルギーに熱演する華優希の可愛さが醸し出す空気感、多幸感に元気を貰える漫画原作の傑作。自他ともに認めるトップ二人の代表作。宝塚歌劇を未だ観たことが無いという宝塚初心者には打って付けの作品。

5 **マスカレード・ホテル** ★ '20年 演出：谷正純 主演：瀬戸かずや、朝月希和。東野圭吾原作の本格ミステリーの舞台化。複雑なミステリーのプロットを、舞台という制限の中にうまく落とし込み、観客にわかりやすく提示。映画では長澤まさみが演じた山岸尚美役を朝月希和が見事に再現。その活舌の良さと、これぞホテルマンと思わせる的確な演技に脱帽。また、音くり寿の憑依型演技は「花より男子」の三条桜子に続き今回も炸裂。ラストシーンはさすが宝塚演出。山岸尚美の「あの時、私がバスルームに監禁されているとどうしてわかったのですか？」という質問に対する新田浩介の答えがいかして、「映画版」には無い萌えポイント！瀬戸かずやを中心とした、7分に及ぶ一曲通しのフィナーレダンスも熱い。

6 **ポーの一族** ★★ '18年 演出：小池修一郎 主演：明日海りお、仙名彩世、柚香光。萩尾望都の原作漫画の舞台化。不老不死のバンパネラー族が、時空を超えて人間と関わって行く悲しくて切ない物語。明日海りおと柚香光のビジュアルは宝塚史上屈指の美しさで、原作漫画の世界観を見事に具現化している。「原作のイメージに合った役者が出て来るのを長年待った甲斐があった」と演出家・小池修一郎に言わしめた明日海りおの魅力溢れる傑作。

7 **ハンナのお花屋さん～Hanna's Florist\*** '17年 演出：植田景子 主演：明日海りお、仙名彩世。ロンドンの高級住宅街で花屋を営むデンマーク人の青年と、東欧からやって来た少し影のある女性との出会いを通して、人生の本当の豊かさに気付いていくハートウォーミングな物語。明日海りおの優しさと温かさが役に滲み出ていて、彼女の演技や歌声に心を洗われる。

8 **金色の砂漠\*** ‘16年 演出：上田久美子 主演：明日海りお、花乃まりあ。砂漠の王国を舞台にした愛憎劇。この王国では、王女が産まれると幼い男子を専属の奴隷として傳かせ、生涯に渡り身の回りの世話をさせるしきりがある。そんな王女と奴隷の関係は、二人が成長するにつれ屈折した感情のもつれとなって愛と憎しみが錯綜する。踏台になったトップスターが娘役に踏まれるという宝塚的には衝撃的な演出にチャレンジした点が興味深い。

9 **風の次郎吉～大江戸夜飛翔\*** ‘15年 演出：齋藤吉正 主演：北翔海莉、瀬戸かずや、仙名彩世。鼠小僧次郎吉の活躍に胸がスカッと、最後はほろっとさせられる、最高のエンターテイメント作品。宝塚の枠に留まらない北翔海莉の役者としての多才さとサービス精神がいかに発揮され観客をとことん楽しませてくれる。

10 **復活～恋が終わり、愛が残った** ‘12年 演出：石田昌也 主演：蘭寿とむ、蘭乃はな。文豪トルストイの小説の舞台化は「贖罪のための愛は真実の愛なのか」という究極のテーマに果敢に挑む。蘭乃はなが娼婦にまで落ちぶれたカチューシャを熱演。

11 **小さな花がひらいた～山本周五郎「ちいさこべ」より** ★★ ‘11年 脚本：柴田侑宏 演出：中村暁 主演：蘭寿とむ、蘭乃はな。大工の若棟梁・茂次の江戸っ子気質の歯切れの良さと、茂次に淡い恋心を抱くおりつの優しさと健気さ、そして子供たちが歌う「もう涙とおさらばさ♪」にもう涙が止まらない。一見厳しそうだが実はあったかい心根を持った茂次の人となりで説得力を持たせる蘭寿とむの演技、そして茂次を密かに思うおりつの微妙な心の動きを細やかに演じる蘭乃はなの好演が光る。

12 **EXCITER!! (ショー)** ★ ‘09年 演出：藤井大介 主演：真飛聖、桜乃彩音。花組のショーと言えば「EXCITER!!」。黒と真紅の衣装を身にまとった男役と娘役が舞台狭しと歌い踊る華やかなプロローグは圧巻。とにかく、あのイントロが聞こえてきたときのぞくぞく感はたまらない。いつのまにか「バチッバチッバチッ!」「ガチッガチッガチッ!」と口ずさんでしまっている。

13 **銀ちゃんの恋** ★ ‘08年 演出：石田昌也 主演：大空祐飛、野々すみ花、華形ひかる。つかこうへい作「蒲田行進曲」を舞台化。傍若無人な銀四郎に翻弄される小夏やヤスの生き様を鮮烈に描いた痛快人情活劇。この大空祐飛・野々すみ花版はもちろんのこと、1996年月組の久世星佳・風花舞版、2021年花組の水美舞斗・星空美咲版も面白く、ヤスの階段落ちにそれぞれの工夫がある。大空祐飛が宙組トップ時代にも同作品を演じているが個人的にはこの花組バージョンの方が好きかな。

14 **くらわんか\*** ‘05年 演出：谷正純 主演：蘭寿とむと愛音羽麗のW主演。古典落語を題材に、枚方・くらわんか船の船宿を舞台に繰り広げられる荒唐無稽、抱腹絶倒の人情喜劇。主人公八五郎を演じる蘭寿や愛音の台詞量が半端なく、立て板に水のごとき大阪弁の早口に感心。

15 **不滅の棘** ‘03年 演出：木村信司 主演：春野寿美礼、ふづき美世。カレル・チャペック原作。父親が発明した薬で永遠の命を得た主人公は19世紀初頭、ある女性と恋に落ちる。それから100年後、主人公はその女性の子孫たちの相続争いに関わるが、彼らに近寄ったのには別の目的があった…。白に統一された舞台装置や衣装が醸し出す世界観が独特で、ラストシーンが見事な傑作。春野寿美礼の歌に聴き惚れる。

16 **あかねさす紫の花\*** ‘02年 演出：柴田侑宏 主演：春野寿美礼、大鳥れい、瀬奈じゅん。大化の改新を成し遂げた中大兄皇子は大海人皇子から額田女王を奪い取り強引に自分の妃にしてしまう。悔しさをかみ殺した大海人皇子は果たしてどのような行動に出るのか。額田王の歌「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る」をモチーフに描かれる、万葉ロマンあふれる禁断の愛の物語。

17 **琥珀色の雨にぬれて\*** '02年 作・演出：柴田侑宏 演出：正塚晴彦 主演：匠ひびき、大鳥れい。第一次大戦後のパリを舞台にした大人の恋物語。この公演（宝塚大劇場）については芝居の内容と言うよりは、退団公演にもかかわらず、脊髄炎が悪化し、思うように動けなかった匠ひびきの役者としての悲運を目の当たりしたことの衝撃が大きかった。芝居と併演されたショー「Cocktail」終了後の退団挨拶で「3日前から脚が動かなくなりました」という彼女の言葉に客席から悲鳴が上がる。ダンサーとして活躍した彼女の心情を想像すると涙なくしては観られない退団公演の千秋楽となった。

18 **夢と孤独の果てに〜ルートヴィッヒ二世\*** '00年 演出：植田景子 主演：愛華みれ、大鳥れい。ノイシュバンシュタイン城の建設で有名な美しき国王ルートヴィッヒ二世の儂くも悲しい生涯を幻想的に描く。愛華みれが美貌の王に命を吹き込んだ。

19 **白い朝〜山本周五郎「さぶ」より★★** '97年 演出：柴田侑宏 主演：匠ひびき、伊織直加。江戸で有名な表具屋の職人・栄二と、子供のころからの奉公仲間・さぶの深い友情を描いた和物の傑作。ある日、仕事先で身に覚えのない盗みの疑いを掛けられた栄二は店の出入りを禁じられ、その悔しさで自暴自棄になり、挙句、石川島人足寄場での労働を強いられることとなる。そこでの人との出会い、そしてさぶや周りの人間の温かさに触れるうちに、栄二は人間として成長していく。匠ひびきの熱演に固唾を飲む。

20 **君に恋してラビリンス** '97年 演出：中村暁 主演：初風緑、伊織直加。マリヴォー作「愛と偶然との戯れ」が原案。アメリカのリゾートホテルを舞台にした、2組の男女のラブコメディ。親の決めた許嫁にホテルで会うことになった男女は、相手の様子をうかがうために、それぞれが代役と入れ替わった。果たして4人の恋のゆくえは…

21 **ダンディズム！（ショー）★** '95年 演出：岡田敬二 主演：真矢みき、純名里沙。真矢みきと言えばダンディズム！愛華みれ、紫吹淳、海峡わたる、匠ひびきなどのスターたちを率い、女優「真矢ミキ」からは想像できないダンディさ炸裂のパワフルなショー。中盤、「キャリオカ♪」のシーンはこれぞ宝塚といったダンスシーンで、黒燕尾の男役ダンスとドレス姿の娘役のスカートさばき、ダイナミックな舞台装置の動きはとにかく必見！！純名里沙の歌唱力も凄い！何度でも見たくなる中毒性が半端ないショー。

22 **LAST DANCE\*** '95年 演出：正塚晴彦 主演：安寿ミラ、森奈みはる。ギャンブラーで名を馳せたジュリアーノ（安寿）と海運会社社長マリオス（海峡ひろき）との対決を描いたハードボイルド。誰が敵で誰が味方か暗中模索の中でドラマは意外なラストを迎える。森奈みはると純名里沙の歌の競演が見もの。

23 **メランコリックジゴロ〜危ない相続人\* ★** '93年 演出：正塚晴彦 主演：安寿ミラ、森奈みはる、真矢みき。資産家の睡眠口座を相続人に成りすましかすめ取ろうとするジゴロ二人と相続人の女性とのラブロマンス。フェリシア役を森奈みはるが可愛く好演。

24 **ジャンクション24（ショー）★★** '91年 演出：草野旦 主演：大浦みずき、ひびき美都。安寿ミラ、真矢みき、磯野千尋、紫吹淳、匠ひびきなど、名立たるショースターを率い「ダンスの花組」の頂点に君臨する大浦みずきの集大成となる退団公演。「センチメンタル・ドリーム」では大浦自らが振付を担当し、磯野とのコミカルなダンスシーンを演出。「ブレイク・ア・レグ」のソロ、そしてダンスはため息が出るほどカッコいい。峰丘奈知の心に染みるソロをバッグにひびき美都と踊るデュエットダンスはひたすら美しい。そして、千秋楽ではサヨナラショーの最後、「心の翼」の歌唱に劇場中が涙した最高のショー！

25 **秋…冬への前奏曲〜悲しみのパ・ド・ドゥー\*** '90年 演出：谷正純 主演：大浦みずき、ひびき美都。ナチズムが台頭するベルリンを舞台に、チェコとスロバキアのダンサーの愛と自由への戦いを鮮烈に描いた人間ドラマ。大浦みずきのダンスに注目。

26 **あの日薔薇一輪\*** '87年 演出:柴田侑宏 主演:高汐巴、秋篠美帆、大浦みずき。  
1950年代のアメリカの大企業を舞台にした、会社重役ロベールとちょっとさえない秘書ミレーヌ、そしてミレーヌの恋人バーナードの三角関係を描いた企業物ラブロマンス。

27 **微風のマドリガル\*** '86年 演出:大関弘政 主演:高汐巴、秋篠美帆。船乗りの青年が久しぶりにバルセロナに帰港した。口ずさんでいた歌をきっかけに港町の安宿の娘と出会い恋に落ちるが、二人が兄妹だったことがわかる。娘には結婚話が舞い込むが、二人の出自にはまだ思いもよらぬ事実が隠されていた...

28 **霧深きエルベのほとり\*** ★ '83 作:菊田一夫 演出:柴田侑宏 主演:順みつき、若葉ひろみ。見た目は粗野だが純粋で心根の優しい船乗りカールと、父に反発して家出をしたお金持ちのお嬢様マルギットの許されざる恋を濃厚に描いた傑作。とにかく、カールを演じた順みつきの演技の迫力が凄まじく、悲恋の結末と相まって涙が止まらない。

29 **夜明けの序曲\*** '82年 作・演出:植田紳爾・酒井澄夫 主演:松あきら、若葉ひろみ。芸術祭大賞受賞作。新派劇の創始者・川上音二郎と、「マダム貞奴」として海外で名を馳せた妻・貞の波乱万丈の人生を劇的に描いた名作。若葉ひろみの堂々とした演技に感動。

## 月 組

1 **グレート・ギャツビー** ★★ '22年 演出:小池修一郎 主演:月城かなと、海乃美月。F・スコット・フィッツジェラルドの原作小説の舞台化。背中で語る男役のカッコよさが光る名作。挿入歌「朝日の昇る前に🎵」を歌う月城かなとが渋い。初演は1991年、杜けあきと鮎ゆうきで、再演は2008年に瀬奈じゅんと城咲あいでも上演。ちょっとした演出や役作りの違いに印象や解釈が変わる作品。

2 **プエノスアイレスの風\*** '22年 演出:正塚晴彦 主演:暁千星、天紫珠李。7年ぶりに釈放された元反政府ゲリラのリーダー・ニコラスが、タンゴ酒場の花形ダンサー・イサベラとの交流を通じて、新たな生き方を模索する青春劇。暁千星と天紫珠李が踊るダイナミックなアルゼンチンタンゴ、そして、晴音アキが歌う主題歌「Viento de Buenos Aires」が観客の心を揺さぶる。

3 **今夜、ロマンス劇場で** ★ '22年 演出:小柳奈穂子 主演:月城かなと、海乃美月。綾瀬はるか主演映画の宝塚版。助監督の青年と映画から飛び出して来たお姫様とのロマンチックでヒューマニクなラブファンタジー。ラストシーンで映像と実際の舞台が融合していく演出が秀逸で主題歌に感涙。映画同様、後半は、涙なくしては観られない感動の名作。

4 **ダル・レークの恋\*** '21年 作:菊田一夫 演出:谷貴矢 主演:月城かなと、海乃美月。インド北部のダル湖を舞台に、大尉ラッチマンとベナレス領主の孫娘カマラとの身分違いの愛を濃密に描く。ラッチマンとの力関係の逆転劇に翻弄され苦しむカマラの心情を繊細に表現する海乃の熱演が見もの。

5 **ピガール狂騒曲〜シェイクスピア作「十二夜」より** '20年 演出:原田諒 主演:珠城りょう、美園さくら。兄と生き別れたジャンヌ(珠城)は男装し、ジャンヌを男性と勘違いして恋心を抱く人妻ガブリエル(美園)とムーランルージュの舞台に立つ。そこへジャンヌとそっくりの兄ヴィクトール(珠城)が現れ、ガブリエルに一目ぼれ... 劇中ショーでのカンカン踊りとラインダンスが見事で、スピンしまくるダンサー暁千星は必見。

6 **1789〜バスティーユの恋人たち** ★ '15年 演出:小池修一郎 主演:龍真咲、愛希れいか。「ベルサイユのばら」に描かれるフランス革命を民衆側から描いたフレンチ・ロック・ミュージカルの傑作。農民のロナンと王妃に仕えるオランプの相容れない愛は革命の成功と共に成就するのか。数々のアンサンブルナンバーに心打たれる。

7 **THE MERRY WIDOW ★★** '13年 演出：谷正純 主演：北翔海莉、咲妃みゆ。フランス・レハール作曲のオペレッタの宝塚版。小国ポンテヴェドロのパリ駐在大使は、莫大な遺産を相続した未亡人が外国人と再婚して、母国の財産が海外に流出してしまうのを阻止するため、大使館に赴任したダニコ伯爵に未亡人との結婚を命じる。しかし、その未亡人はなんとダニコの昔の恋人だった…。北翔海莉の卓越した歌唱力はもちろん、大使役・星条海斗の爆笑をかつさらう快演、終盤これでもかと繰り返されるカンカンダンス、そしてカーテンコールの盛上がり。見どころ盛りだくさんのミュージカルコメディの傑作。

8 **バラの国の王子～ポーモン夫人作「美女と野獣」より ★** '11年 演出：木村信司 主演：霧矢大夢、蒼乃夕妃。「美女と野獣」を宝塚用にリメイク。映画とは少しストーリーや演出は違うが、宝塚らしいロマンチックなファンタジーに心が洗われる。「野獣(ビースト)」が宝塚ではどのような扮装で登場するか見もの。

9 **ME AND MY GIRL～ミーアンドマイガール ★★** '08年 脚色：小原弘稔 脚色・演出：三木章夫 主演：瀬奈じゅん、彩乃かなみ。「思わぬ相続財産が転がり込んできたとき貴方なら財産を選ぶ？それとも彼女を選ぶ？」。ノリのいい楽曲に心躍るロマンチックなラブコメディ。瀬奈、彩乃、霧矢大夢、出雲綾など歌うまさんがそろい踏みで耳が心地良い。ジャッキーは男役が演じることが多く、今回の明日海りおのジャッキーは実に色っぽく可愛くて出色だった。最近では星組公演での極美慎のジャッキーも魅力的だった。

10 **なみだ橋 えがお橋\*** '03年 演出：谷正純 主演：月船さらら、城咲あい。古典落語を題材に、浅草の吾妻橋で繰り広げられる抱腹絶倒の心中物喜劇。五十両の借金を苦に身投げするしかない吾妻橋にやってきた大店の若旦那。ところが次から次へと身投げ志願者がやって来て、身投げする者と助ける者が五十両を貰ったり呉れたりやったりの大忙し。果たしてこの五十両の行き先は？

11 **薔薇の封印～ヴァンパイア・レクイエム\*** '03年 演出：小池修一郎 主演：紫吹淳、映美くらら。荒ぶるバンパイアを抑える封印が解かれ、再びそれを封印するためにバンパイアとなったフランスの、歴史を跨いで活躍の果ては？ルイ14世の章での紫吹淳と霧矢大夢のダンス合戦は見もの！紫吹の脚の上がり方の美しさは尋常じゃない。ナチスドイツの章での映美くららの軍服姿に注目！

12 **BLUE MOON BLUE～月明かりの赤い花(ショー) ★** '00年 演出：齋藤吉正 主演：真琴つばさ、檀れい、紫吹淳。アルフィーの高見沢俊彦が主題歌を提供。独特な演出、衣裳のド派手さ、演技の濃厚さ、おもちゃ箱をひっくり返したような、それでいてストーリー仕立ての奇想天外で、かつ、とてもパワフルで毒気のあるショー。「真琴つばさ」を感じるには芝居ではなく敢えてこのショーを推したい。

13 **シンデレラ・ロック\*** '98年 演出：植田景子 主演：大和悠河、西條三恵。童話「シンデレラ」をベースにした創作ミュージカル。音楽プロダクション会社の前社長の息子でロックスターを目指す青年シドは、会社の経営権を握る後妻の継母から嫌がらせを受け、なかなかデビュー出来ないでいた。そんな彼のもとに世界的スター、マドンナ・キャリーの相手役のオーディションの話が舞い込むが、そのオーディションでも継母が邪魔をして、思うように事は運ばない…。シンデレラストoryをさらに逆手に取ったストーリー展開が面白く、観劇後も心地良い余韻に浸れる快作。

14 **バロンの末裔\* ★** '96年 演出：正塚晴彦 主演：久世星佳、風花舞。舞台は20世紀初頭のスコットランド。久世が双子の兄弟を一人二役でうまく演じ分け、キャサリン(風花)に対する二人の愛の葛藤の機微を丁寧に繊細に描いている。兄弟が入れ替わるトリックが見事。2021年、宙組の真風涼帆と潤花で再演。

15 エールの残照\*★★ '94年 演出：谷正純 主演：天海祐希、麻乃佳世。アイルランド独立運動の中で、貴族の青年シャムロックと独立運動家の女性ロージー、その婚約者で独立派リーダー・ダニエルの三角関係を劇的に描いた傑作。ラストシーンのお姫様抱っこを観て天海祐希のファンになった女性が多いのでは。主題歌を谷村新司が提供。

16 風と共に去りぬ★★ '94年 脚本・演出：植田紳爾 主演：天海祐希、麻乃佳世。「ベルサイユのばら」と共に宝塚を代表する大作ミュージカル。トップスターがスカーレット役をやることも多く、また映画との違いとして、スカーレットの分身として彼女の本音を語る「スカーレットII」という役があるのが特徴である。本公演は、スカーレットを演じる麻乃佳世の演技が素晴らしく、女性の可愛さ、弱さ、愚かさ、そして逞しさを見事表現している。スカーレットII役の真琴つばさとのやり取りも面白い。

17 PUCK〜パック\*★★ '92年 演出：小池修一郎 主演：涼風真世、麻乃佳世。シェイクスピア「真夏の夜の夢」のPUCKを主人公にした、子供から大人までが一緒に観て楽しめる心温まるファンタジー。妖精PUCKを演じる涼風真世の不思議な魅力の虜になる。それにしても彼女の歌声は心に響く。松任谷由実が主題歌を提供。

18 珈琲カルナバル\* '92 演出：柴田侑宏 主演：涼風真世、麻乃佳代、天海祐希。1880年代のサンパウロのコーヒー農園が舞台。隣接する農園との権利抗争の渦中で、農園主の娘ベアトリスとその婚約者アルツール、そして農園主に見込まれ支配人にまで出世したジュリオら三人の擦れ違う恋物語を劇的に描いた名作。プロローグや場面転換ごとに繰り上げられるラテンダンスの総踊りが華やかで楽しい。涼風真世の歌声が心地良い。

19 銀の狼\*★ '91年 演出：正塚晴彦 主演：涼風真世、麻乃佳世、天海祐希。過去の事件がきっかけで記憶を失った外科医ミシェルは殺し屋「銀の狼」として名を馳せる。あるレセプション会場で国務大臣とその妻を見たとき、記憶の一部が蘇り、彼は真相を明らかにするために大臣の妻を誘拐する... 2005年雪組、朝海ひかるの再演も素晴らしかった。

20 ベルサイユのばら〜オスカル編★★ '91年 演出：植田紳爾 主演：涼風真世、天海祐希。池田理代子の原作漫画の舞台化。これを観ずして宝塚を観たと言うなかれ。涼風真世の美しさ、歌のうまさに感動。天海祐希は初々しくてかっこいい。1974年、月組の初風諄・大滝子・榛名由梨の初演以来、1975年、花組の安奈淳・上原まり、雪組の汀夏子・麻実れい、1976年、星組の鳳蘭による再演など、宝塚では最も再演や外伝の多い作品。

21 川霧の橋〜山本周五郎「柳橋物語」「ひとでなし」より '90年 演出：柴田侑宏 主演：剣幸、こだま愛、涼風真世。お祭りの和太鼓で始まるプロローグは圧巻。江戸の大火を背景に、大工の棟梁・幸次郎と砥ぎ職人の娘・お光のすれ違いの恋と、職人仲間たちとの人間模様を江戸情緒豊かに浮かび上がらせた和物の名作。

22 リラの壁の囚人たち\* '88年 演出：小原弘稔 主演：涼風真世、朝風鈴。1944年ナチ占領下のパリ。ゲシュタポの追跡から逃れ、長屋に逃げ込んだレジスタンスの青年エドと、長屋の住人ポーラはお互い惹かれ合うが、二人の前にはその恋を諦めざるを得ない運命の壁があった。場面設定はリラの壁に囲まれた長屋の裏庭だけなのだが、ストーリー展開が実に面白く、最後までぐいぐい引き込まれる。裏庭での洗濯のシーンの歌詞が笑えた。

23 二都物語〜チャールズ・ディケンズ原作 '85年 演出：太田哲則 主演：大地真央、黒木瞳。2003年には瀬奈じゅんと桜乃彩音で再演。フランス革命を機に庶民が貴族に復讐していく過程で起こった皮肉な運命に翻弄されるチャールズ・ダーネイとその妻ルーシーを、ルーシーへの愛ゆえに自分の命を懸けて救おうとするシドニー・カートンの男気に感動する。

## 雪組

1 **蒼穹の昴** '22年 演出：原田諒 主演：彩風咲奈、朝月希和。浅田次郎原作。西太后が光緒帝の後見として清国政治の実権を握っていた時代、科挙試験に首席合格し政治の中枢部に関わって行く梁文秀と、極貧生活から抜け出すために宦官にまでなった李春児の、立場の全く異なる幼馴染の二人が、激動の時代を勇気と希望を持って生き抜いていく壮大な中国歴史大作。絢爛豪華な舞台装置と衣装は宝塚史上屈指。彩風咲奈の声量が凄い。

## 2 ONCE UPON A TIME IN AMERICA(ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ)

★ '20年 演出：小池修一郎 主演：望海風斗、真彩希帆。禁酒法時代のアメリカ社会の表と裏の人間模様を描いたハードボイルド。トップ二人の歌唱力が半端ない。一幕ラスト、深紅の薔薇に彩られたスイートルームでの望海風斗の演技があまりにも印象的。

3 **壬生義士伝** '19年 演出：石田昌也 主演：望海風斗、真彩希帆。浅田次郎の小説を舞台化。南部藩の下級武士・吉村貫一郎は貧困にあえぐ家族を養うために脱藩し新選組に入隊する。仕送りのため仕事を選ばず人を斬り続けるが、結局、鳥羽伏見の戦いで敗走。行き場を失った彼を待つものは... 家族のために幕末を生き抜こうとした下級武士の悲哀を描いた和物の名作。彩海せらと彩みちるの新人公演も素晴らしく一見の価値あり。

4 **ファントム** ★★ '19年 演出：中村一徳 主演：望海風斗、真彩希帆。アーサー・コピット脚本の傑作ミュージカル。リチャード・スティルゴー脚本の『オペラ座の怪人』とはまた違ったストーリーに泣ける。トップコンビの歌唱力は宝塚史上最高レベルで聞きごたえ十分。特に二人のデュエット「HOME ♪」と「You Are Music ♪」は必聴。2004年、和央ようかと花總まりによる初演以降、2006年に春野寿美礼と桜乃彩音、2011年に蘭寿とむと蘭乃はなにより再演。「エリザベート～愛と死の輪舞」と並ぶ宝塚歌劇最高傑作の一つ。

5 **星逢一夜** \* ★★ '15年 演出：上田久美子 主演：早霧せいな、咲妃みゆ、望海風斗。藩主の子息・紀之介、身分なき娘・泉、そして幼馴染の源太の、哀しくも切ない恋心と友情を抒情たっぷり描き出した和物の傑作。ラストシーンに涙が止まらない。新人公演での月城かなとと彩みちるの演技もまた素晴らしかった。

6 **銀二貫～梅が枝の花かんざし** ★★ '15年 演出：谷正純 主演：月城かなと、有沙瞳。高田郁原作。商人の町大坂を舞台にした浪華人情物語。敵討ちで父を失い自分も討たれそうなところを寒天問屋の主人・和助に銀二貫で救われた武士の子息・鶴之助は松吉と名を改め寒天問屋で丁稚として生きることとなる。武士の誇りが邪魔をして周りの人間となかなか打ち解けられなかった松吉が丁稚仲間の梅吉や料理屋の娘・真帆との交流を通して、商人として生きていく自分に誇りを持てるようになっていく。人が人を思う優しさと健気さに、感動の波が何度も押し寄せる丁稚物の傑作。

7 **心中・恋の大和路～近松門左衛門「冥途の飛脚」**より '14年 脚本：菅沼潤 演出：谷正純 主演：壮一帆、愛加あゆ。身の程も弁えず遊女との恋に溺れ沈む男と、そんな男に一縷の希望を託す遊女の悲しくも切ない恋の道行きを切々と描いた心中物の名作。娘役が演じる太夫や遊女たちの着物姿の色香はさすが。父との再会場面での遊女に対する恨み節がやるせなく居た堪れない。最近では2022年に雪組で和希そらと夢白あやが好演。

8 **Shall we ダンス?** ★ '13年 演出：小柳奈穂子 主演：壮一帆、愛加あゆ、早霧せいな。役所広司が主演して大ヒットした映画の初のミュージカル化。映画では竹中直人が演じていた青木富夫役を夢乃聖夏がコミカルに快演。また、本来は女性ダンス教師のエラの役はトップ娘役が演じそうなところを男役の早霧せいなに配役したことが功を奏しているのでは。しっとりと観られる大人のラブストーリー。

9 **ブラック・ジャック～許されざる者への挽歌** '13年 演出：正塚晴彦 主演：未涼亜希。手塚治虫の原作漫画を舞台化。ピノコ誕生秘話が感動的に描かれる。ピノコを演じる桃

花ひなから目が離せない。ブラック・ジャックでは他に「ブラック・ジャック危険な賭け」という作品があり、1994年に安寿ミラで、2022年には月城かなとで上演されている。こちらの作品も面白いが、好みとしては「許されざる者への挽歌」かな。

10 **双曲線上のカルテ ★** '12年 演出：石田昌也 主演：早霧せいな、星乃あんり。渡辺淳一原作「無影燈」より。末期がんで死期を悟った医師が自分の体を治験の実験台にしながら、医師として末期がん患者に寄り添っていき生きざまをリアルに描いた医療ヒューマンドラマ。死の間際で唯一の救いとなった看護婦との恋の行方に涙が止まらない。

11 **ニジンスキー～奇跡の舞神\*** '11年 演出：原田諒 主演：早霧せいな、愛加あゆ、緒月遠麻。伝説のバレエダンサー、ヴァーツラフ・ニジンスキーの半生を劇的に描く。この作品の見どころは何と云っても、ニジンスキーを演じる早霧せいなダンスの素晴らしさに尽きる。ニジンスキーの魂が乗り移ったかのような鬼気迫る早霧の身体表現に打ちのめされた。特に、フィナーレ最後の早霧のダンスは必見！ソロダンスでこれだけ感動させられた作品はあまりない。何度も繰り返されるカーテンコールもまた熱い！

12 **黒い瞳～プーシキン作「大尉の娘」より** '11年 脚本：柴田侑宏 演出・振付：謝珠栄 主演：音月桂、舞羽美海。冒頭、主人公ニコライが吹雪の中で倒れたところを、妖精のようなマーシャがコサックダンスを舞いながら登場し救ってあげるシーンが印象的。初演の風花舞のダンスは特に素晴らしく、再演の舞羽、再々演の星風まどかの妖精ダンスを比べて観るのも興味深い。

13 **カラマーゾフの兄弟** '08年 演出：齋藤吉正 主演：水夏希、白羽ゆり。ドストエフスキーの傑作小説のミュージカル化。親子、兄弟、恋人... それぞれの愛憎が二重にも三重にも重なり合い、一筋縄ではいかない錯綜した人間模様の迷宮に観客を誘い込む。「殺したいほど憎んでいた人が死んだとき、その冤罪に罪はないのか」という究極の問いを突き付ける。

14 **墮天使の涙\*** '06年 演出：植田景子 主演：朝海ひかる、舞風りら。「強欲で自己中心的で愚かな人間を、なぜ神は救ってやらないのか？」と神に失望する墮天使。しかし、ある盲目の女性に出会うことで、彼の考えは変わっていく。ファンタジーだがテーマが深く、舞風りらの歌に涙を誘われる。朝海ひかるの研ぎ澄まされたダンスシーンは必見。

15 **DAYTIME HUSTLER～愛を売る男\*** '05年 演出：小池修一郎 主演：貴城けい、天勢いづる。母校のリゾート開発に反対し解雇された学校教師がハスラー（エスコートホスト）に転身し、リゾート開発の裏でうごめく不正に立ち向かっていくハードボイルドロマンス。貴城けいがかっこいい。

16 **殉情～谷崎潤一郎作「春琴抄」より** '02年 脚本・演出：石田昌也 主演：絵麻緒ゆう、紺野まひる。最近では2022年花組で一ノ瀬航季・美羽愛コンビ、帆純まひろ・朝葉ことのコンビがW主演で上演。薬問屋の盲目の娘・春琴を献身的に世話する奉公人・佐助の無償の愛、究極の愛を劇的に描き、谷崎潤一郎の名作「春琴抄」の世界観を見事に舞台化している。

17 **ノバ・ボサ・ノバ～盗まれたカルナバル（ショー）★★** '99年 演出：草野旦 主演：轟悠、月影瞳、香寿たつき。鴨川清作が生み出した傑作ショー。八百屋舞台で繰り返されるラテンショーは真夏のキラキラした太陽を感じさせ、人間の深部に眠る原始の鼓動を呼び覚ますほど熱い。3日間踊り狂うリオのカーニバルを舞台に、義賊ソールと観光客エストレーラ、そして盗賊オーロと物売り娘ブリーザの熱い恋が展開され、祭に熱した若者は殺人事件を起こすほどに興奮している。盗まれた首飾りが次から次へと人の手を渡りながらショーは進んでいき、クライマックスは轟の情熱的なソロを中心に、組子全員による陶醉した縦振りダンスに圧倒される。

18 **再会\*** ★ ‘99年 演出：石田昌也 主演：轟悠、月影瞳。売れない小説家の青年はホテル経営者の父から「ある女性をその気にさせ、見事振って、それを小説に書くことが、ホテル経営者の跡継ぎになる条件だ」と言われる。彼はその目的を果たすためある女性をその気にさせるがいつの間にか逆に自分が惚れてしまう。果たして二人の恋の行方と跡継ぎ問題はどうなるのか？ いろんな顔の女性を演じ分ける月影瞳が魅力的。

19 **凍てついた明日～ボニー&クライド** ★★ ‘98年 演出：荻田浩一 主演：香寿たつき、月影瞳。映画「俺たちに明日はない」の宝塚版。男臭さを存分に発揮する香寿たつきと対等に渡り合うトップ娘役・月影瞳のクールで熱い演技に注目。安蘭けいが歌う「Blues Requiem」が悲しく心に響く。脚本・演出・楽曲そして演技が高次元で結実した傑作。

20 **嵐が丘** ‘97年 演出：太田哲則 主演：和央ようか、貴咲美里、安蘭けい。エミリー・ブロンテの名作の舞台化。復讐に憑りつかれた主人公ヒースクリフの凄まじい生き様を演じ切った和央ようかの怪演に度肝を抜かれた。

21 **仮面のロマネスク～ラクロ作「危険な関係」より** ‘97年 演出：柴田侑宏 主演：高嶺ふぶき、花總まり。貴族社会が終焉を迎えようとしていた19世紀のフランス社交界。恋愛をゲームのように楽しむ青年貴族と若き未亡人の恋の心理戦。高嶺ふぶきと花總まりの「大人な」演技が見どころ。

22 **ブルボンの封印** ‘93年 演出：太田哲則 主演：一路真輝、紫とも。藤本ひとみ原作小説の舞台化。ルイ14世には双子の兄がいた。その出自を隠すため、兄は幼少の頃から英領ジャージ島にやられていた。彼が成人し、ルイ14世の正統性を脅かすかもしれないと危惧した宰相マザランは、ジャージ島に密偵を送る... 紫とも熱演に注目。

23 **この恋は雲の涯まで\*** ★★ ‘92年 演出：植田紳爾 主演：杜けあき、紫とも、一路真輝。源義経のジンギスカン伝説が下敷きの一大スペクタクル巨編。初めて観たとき、「なんか凄いものを観たな！」と呆気にとられた。これぞ宝塚の大芝居！

24 **たまゆらの記\*** ‘88年 演出：柴田侑宏 主演：平みち、神奈美帆、杜けあき。「長屋王の変」をベースにした古代王朝ロマン。長屋王の子・安宿王、藤原不比等の娘・安宿媛、そして皇太子の首皇子の3人は幼馴染。安宿媛は安宿王をずっと愛していた。しかし、藤原不比等が権勢を拡大するため安宿媛を首皇子に入内させる。天平の政争の狭間で翻弄される三人の運命は悲しい結末へ...

25 **千太郎纏しぐれ\*** ‘84年 演出：柴田侑宏 主演：麻実れい、平みち。江戸の火消し「よ組」の纏持ち千太郎とライバル「か組」の卯之吉は、出火の度に現場での縄張り争い。「か組」の棟梁の娘お市は江戸っ子気質で二枚目の千太郎にほの字。火消たちの切符の良さ、芸者たちの人情味が江戸情緒を醸し出し、涙を誘う人情和物の名作。

26 **彷徨のレクイエム\*** ‘81年 演出：植田紳爾・阿古健 主演：麻実れい、遙くらら、寿ひずる。アナスタシア伝説をベースにしたオムニバス作品。前半は寿ひずる演ずるコピリンスキー大佐が主人公の皇帝一家処刑事件を。後半では麻実れい演ずるレビュースター・フェリックスが主人公のアナスタシアストーリーを描く。2020年に宙組で上演した「アナスタシア」とは全く毛色の違った仕上がりになっているが、これはこれで面白い。

27 **去りゆきし君がために\*** ‘80年 作・演出：植田紳爾 演出：阿古健 主演：汀夏子、麻実れい。19世紀半ば、イタリア支配下にあるスペインが舞台。イタリアの支配から抜け出し王政復古を狙うスペイン人愛国者たちと秘密警察の争いごとに巻き込まれ、殺人犯としての十字架を背負わざるを得なくなった青年の苦渋の人生を劇的に描いた力作。退団する汀のために当て書きされた脚本であり、一般的にこのような退団公演は凡作になりがちだが、この作品は汀のパワーとトップスターとしてのオーラが凄まじく、理屈を超越した迫力に客席が圧倒される傑作に仕上がっている。淡路通子や三鷹恵子らベテラン女優のいぶ

し銀の熱演も流石で、また、フィナーレダンスでの汀と麻実れいが発する熱量が尋常じゃなく、これがあの伝説の退団公演かと呆気にとられた！

## 星 組

1 **RRR×TAKARAZUKA√Bheem** ‘24年 演出：谷貴矢 主演：礼真琴、舞空瞳、暁千星。‘22年封切以来ロングラン大ヒットのインド映画「RRR」の世界初の舞台化。あのアクション映画を如何に宝塚の舞台に再構築したかが最大の見どころ。話題となった「ナートゥダンス」は見事に舞台上で再現され、観客の拍手が鳴りやまなかった。「ナートゥダンス」を観るだけでも満足のいく作品。観る順番としては「宝塚の舞台」→「映画RRR」→「宝塚の舞台」かな。映画「RRR」もめちゃくちゃ面白いので是非鑑賞を。

2 **JAGUAR BEAT～ジャガービート (ショー)** ‘22年 演出：齋藤吉正 主演：礼真琴、舞空瞳。礼真琴がジャガーを演じるストーリー仕立ての派手派手なノンストップショー。全体的に強いビート感のあるナンバーがとめどなく連続し、まるでロックコンサートみたいな盛り上がり。プロローグ後はイエローモンキーの「ROCK STAR<sup>♫</sup>」でのロケット。礼真琴の歌唱力、ダンス力、体力は人間離れしていて正にミュージカル界のスーパーマンだ！

3 **ロミオとジュリエット ★★** ‘21年 潤色：小池修一郎 主演：礼真琴、舞空瞳。言わずと知れたロミオとジュリエットの美しくも儂い究極の愛を、宝塚音楽学校首席コンビの礼真琴と舞空瞳が初々しくピュアに演じ切った名作。名曲「エメ<sup>♪</sup>」は感動的。ラストのデュエットダンスの技術力の高さは圧巻。礼真琴はピュアな少年の役が嵌る！

4 **シラノ・ド・ベルジュラック** ‘20年 演出：大野拓史 主演：轟悠、小桜ほのか。エドモン・ロスタンの戯曲の宝塚版。同僚と同じ女性を愛してしまった大鼻のシラノは文才の無い同僚のため恋文を代筆してやる。詩情あふれる恋文は彼女のハートを掴むがその書き手がシラノだとは気付かれぬまま、同僚は戦争で亡くなり、それから十数年が過ぎた...

5 **燃ゆる風～軍師・竹中半兵衛\*** ‘17年 演出：鈴木圭 主演：七海ひろき、真彩希帆。荒木村重に寝返ったと、信長に裏切り者扱いされ、その嫡男の斬首を命ぜられた黒田官兵衛の危機に際し、天才軍師・竹中半兵衛がどのような知略で切り抜けていくのかを感動的に描いた戦国物の名作。

6 **オーム・シャンティ・オーム～恋する輪廻** ‘17年 演出：小柳奈穂子 主演：紅ゆずる、綺咲愛里。2007年に大ヒットしたインド映画の舞台化。主人公のオームはシャンティを愛していたが、放火事件に巻き込まれたシャンティは行方不明になり、彼女を救おうとしたオームは交通事故死する。交通事故の加害者の子供として生まれ変わり成長したオームはシャンティそっくりの女性に出会い、30年前の放火事件の真犯人への復讐を決意する。

7 **桜花に舞え～SAMURAI The FINAL\* ★** ‘16年 演出：齋藤吉正 主演：北翔海莉、妃海風。西郷隆盛と共に西南戦争に身を投じて行く明治維新の立役者、中村半次郎こと桐野利秋の生きざまを見事に描き切った維新物の名作。最後、敵対することとなった郷里の親友、隼太郎が半次郎の死に際に叫んだ彼に対するまごころの言葉に目頭が熱くなる。

8 **ガイズ&ドールズ～GUYS & DOLLS ★** ‘15年 演出：酒井澄夫 主演：北翔海莉、妃海風。ブロードウェイでロングランヒットした傑作ミュージカルの宝塚版。宝塚では、‘84年に大地真央と黒木瞳、‘02年に紫吹淳と映美くららで上演。舞台はニューヨーク。ギャングブラーのスカイは仲間のネイサンから「指名した女を口説き落としてハバナへ連れて行けるか」の賭けを持ち込まれる。プレイボーイのスカイは軽い気持ちでその賭けに乗るが、指名された女性はお堅いことで有名な「救世軍」の女軍曹サラだった…。ネイサンの恋人アデレイドを演じる礼真琴の声や仕草が男役とは思えない可愛さで一見の価値あり。

9 めぐり会いは再び～My Only shinin Star '11年 演出：小柳奈穂子 主演：柚希礼音、夢咲ねね。マリヴォー作「愛と偶然との戯れ」より。1997年花組で上演した「君に恋してラビリンス！」は同じ原作。公爵（柚希）とその従者（紅）、侯爵の娘（夢咲）とその侍女（白華）が入れ替わり、花婿探しがこんがらがる珠玉のコメディ。お互いに自分が好きになった相手とは身分不相応だと悩んだ果ての恋の行方は？

10 赤と黒～原作スタンダード '08年 脚本：柴田侑宏 演出：中村暁 主演：安蘭けい、遠野あすか。フランス復古王政の時代、身分なき青年が、上流階級から疎まれながらも、その美貌と才知を生かし立身出世を試みるが、その野望が叶う寸でのところで思いもよらぬ落とし穴が…。安蘭けいが野心とルサンチマン滾る眉目秀麗・才気煥発な青年を好演。

11 THE SCARLET PIMPERNEL～スカーレットピンパーネル ★★ '08年 演出：小池修一郎 主演：安蘭けい、遠野あすか。1997年にブロードウェイで初演され大好評を博したミュージカルの日本初演作。正義の味方パーシー・ブレイクニーの八面六臂の活躍に胸が「スカッ！」とする冒険活劇。安蘭けいや遠野あすかが歌う「ひとかけらの勇気♪」に励まされる。ことごとく立ちはだかる敵役のショーヴランを演じる柚希礼音の存在感が芝居に緊張感を持たせてはいるが、安蘭けいが繰り出すユーモアたっぷりのアドリブに思わず吹き出しそうになるシーンは微笑ましくも愉快である。安蘭けいのこの関西人的な笑いのセンスは同じ関西人である柚希礼音との掛け合によって、より面白さを増す。

12 Hallelujah(ハレルヤ) GO! GO! \* ★ '07年 演出：稲葉太地 主演：柚希礼音、陽月華。「サタデー・ナイト・フィーバー」と「天使にラブ・ソングを…」に「アメリカン・グラフィティ」のテイストを加えて宝塚風にアレンジした青春群像劇。舞台は1970年代半ばのアメリカの田舎町。ダンスコンテスト優勝を目指すデニスは、ある晩、ディスコに現れた謎の美女にハートを鷲掴みにされ、恋人でダンスパートナーのモニカとの関係がぎくしゃくする。名前も聞かずに別れたその女性のことが忘れられず、町中を捜すデニスだったが、ある日、その女性と教会で再会する…。トップ娘役就任直前の陽月華がとにかく美しく、柚希礼音を中心とした若さ溢れる舞台に元気が貰える快作。

13 ヘイズ・コード\* '07年 演出：大野拓史 主演：安蘭けい、遠野あすか。1930年代のハリウッド。映画の自主規制団体から派遣された男と映画女優との対立と恋を通して、「映画における表現の自由とは何か」を問うた社会派スクリーンボール・コメディ。遠野あすかのキュートなファッションが魅力的。トップお披露目公演なので客席は大盛り上がり。

14 龍星～闇を裂き天翔けよ。朕は皇帝なり\* ★ '05年 演出：児玉明子 主演：安蘭けい、柚希礼音。中国戦乱物の傑作。皇帝の子の身代わりが敵国の人質となるが更に別人と入れ替えられ、誰が本当の皇位継承者かわからないまま、宗と金の対立は激化していく。あらかじめ人物相関図を見た方が良い。

15 王家に捧ぐ歌～オペラ「アイーダ」より ★★ '03年 演出：木村信司 主演：湖月わたる、檀れい、安蘭けい。ヴェルディのオペラ「アイーダ」の宝塚版。芸術祭優秀賞受賞。豪華絢爛な衣装と舞台装置は圧巻。男役の安蘭けいがアイーダを熱演。ラストシーンに胸がつまる…。2015年宙組の新人公演、入団2年目の星風まどかが2年目とは思えない堂々とした演技でアイーダをやり切ったのは一見の価値あり。

16 プラハの春 '02年 演出：谷正純 主演：香寿たつき、渚あき。春江一也原作小説の舞台化。「プラハの春」という歴史的事件を背景に、そこで出会った日本人外交官堀江と東ドイツからプラハに移住した反体制活動家の大学講師カテリーナの愛と苦渋を描いた、国境を跨いだラブストーリー。

17 イーハトーヴ 夢～宮澤賢治「銀河鉄道の夜」\* ★ '01年 演出：藤井大介 主演：夢輝のあ、映美くらら、椿火呂花。宮澤賢治の短い生涯と彼の代表作「銀河鉄道の夜」を重

ね合わせ、人の持つ純粋で繊細で壊れやすい大切なものをそのままの形で大切にしたいと願う賢治の心情が、詩的で幻想的な演出によって観客の心にじんわりと届けられる傑作ミュージカル。ジョバンニを演じる夢輝のあとカンパネラを演じる椿火呂花のビジュアルがあまりにも美しく、また、その表情、仕草、台詞、歌唱がとても繊細で、壊れ物を触るような感覚で見入ってしまう。

18 **Love Insurance\*** '00年 演出：正塚晴彦 主演：稔幸、星奈優里。クールでシックなサスペンスロマンス。私立探偵のレイは、白血病で亡くなった恋人グロリアそっくりの保険調査員セシルと出会い、二人は協力して保険金殺人の謎を追う。セシルを演じる星奈優里の大人の色香に魅了される。

19 **エピファニー～「十二夜」より** '99年 演出：大野拓史 主演：彩輝直、妃里梨江。シェイクスピアの「十二夜」の世界を明治初頭の歌舞伎の世界で再現した和物喜劇。歌舞伎役者高五郎の双子の妹おたかは行方不明の兄に代わり高五郎として舞台上に立ち人気を博す。そんなおたかに、座元の入谷が思いを寄せていた鞠が一目ぼれ。そこへひょっこり現れた高五郎に、おたか、入谷、鞠の四人の恋心が錯綜し、てんやわんやの恋模様。

20 **武蔵野の露と消ゆとも\* ★★** '97年 演出：谷正純 主演：麻路さき、白城あやか。橋本実梁を慕っていた皇女和宮は公武合体の方針にのっとり、十五歳で將軍家茂に降嫁することとなった。その決意表明の歌が「惜しまじな君と民とのためならば 身は武蔵野の露と消ゆとも」。江戸城開城時の実築と和宮の再会シーンは律として美。薄桜の中の二人の舞は和物の様式美の極致。公家言葉がとても美しい和物の傑作。和宮を演じる白城あやかが神々しい。

21 **二人だけが悪～男には秘密があった そして女には...** \* '96年 演出：正塚晴彦 主演：麻路さき、白城あやか。元CIAの青年はひょんなことから、ブエノスアイレスで起こった武器横流し事件を捜査する。キャバレーで見た踊り子が実は修道女で、恵まれない人々のためお金を稼いでいることを知り青年は彼女に惹かれていく...

22 **国境のない地図\* ★★** '95年 作・演出：植田紳爾 主演：麻路さき、白城あやか。「ベルリンの壁崩壊」をテーマにした壮大な歴史ヒューマンドラマ。脚本が秀逸で最後の最後までストーリー展開にぐいぐいと引き込まれ、ラストシーンでは涙を禁じ得ない傑作。酷似する二人、ベロニカとザビーネを演じ分ける白城あやかの表情や視線、台詞回しに注目。ピアニスト・ヘルマンを演じる麻路さきは実際にピアノを演奏している。

23 **若き日の唄は忘れじ ★** '94年 演出：大関弘政 主演：紫苑ゆう、白城あやか。藤沢周平「蝉しぐれ」より。青年藩士と隣家のうら若き娘の淡い恋心を抒情たっぷりに描く。ラストシーンが圧巻で、白城あやかの気高さに魅了される。

24 **うたかたの恋** '93年 演出：柴田侑宏 主演：麻路さき、白城あやか。クロード・アネ原作「マイヤーリンク」より。オーストリア皇太子ルドルフと男爵令嬢マリー・ヴェッツェラの許されざる愛を、ルドルフとその父フランツ皇帝との確執の中で描いた歴史ロマン。初演は1983年に麻実れいと遙くらら。2023年、花組の柚香光と星風まどかにより30年ぶりに大劇場で再演された。

25 **紫禁城の落日\*** '91年 演出：植田紳爾 主演：日向薫、毬藻えり。ラストエンペラー愛新覚羅溥儀の半生を史実に基づいて描いた歴史大作。傀儡政権の悲哀を、溥儀とその妻・婉容の会話の応酬で詳らかに描いている。

26 **戦争と平和** '88年 演出：植田紳爾 主演：日向薫、南風まい。文豪トルストイの名作を舞台化。ロシアのナポレオン戦争を縦軸に、ナターシャという一人の女性を通して、人間の弱さ、愚かさ、そしてその先にある成長と希望を深く掘り下げた人間ドラマ。南風の熱演に思わず涙する。

27 紫子(ゆかりこ)〜とりかえばや異聞 '87年 演出:柴田侑宏 主演:峰さを理、南風まい。木原敏江原作漫画の舞台化。安芸の国の当主・碧生とは双子の妹である紫子は、碧生が病に倒れたことで兄の替え玉となる。しかし、そこへ毛利家から妃が嫁いできた。替え玉の紫子が女性であることをどう隠し通すのか。二役を演じる峰さを理の熱演に見入る。

28 悲しみのコルドバ\* ★ '85年 演出:柴田侑宏 主演:峰さを理、湖条れいか。コルドバ出身の花形闘牛士エリオは師匠の娘アンフェリータと婚約していたが、あるパーティで幼馴染のエバとばったり再会し、恋心が再燃する。エリオ、エバ、アンフェリータ、そしてエバの愛人ロメロの恋の四角関係は抜き差しならなくなり決闘にまで発展するが、実は…。再演の安寿ミラ版では森奈みはる、真矢みき、純名里沙の4人が歌う「エル・アモール♪」が圧巻。また、主題歌「Sol y Sombra ♪」が印象的で物語を劇的に盛り上げる。

29 わが愛は山の彼方に ★ '84年 演出:植田紳爾 主演:峰さを理 湖条れいか。伊藤桂一原作「落日の悲歌」より。10世紀ごろの朝鮮半島が舞台。恋人・秀民の愛をわかりつつも、敵の武将チャムガの優しさに触れ、その板挟みに苦しむ万姫。峰さを理をはじめとした役者たちの熱演にぐいぐいと引き込まれ、ラストシーンの迫力に言葉を失う。殺陣の切れ味が見事。

30 忘れじの歌\* ★★ '82年 作:白井鐵造 演出:大関弘政 主演:峰さを理、秋篠美帆。初演は1938年だがその古さを感じさせない。画家であるダルメンを愛しているのに世間の噂に惑わされ別れてしまったジェーンが、戦争で失明したダルメンの看病のため、看護婦に成りすまし静養先を訪れる。果たして二人の愛に光は差し込むのだろうか。峰さを理と秋篠美帆ががっぷり四つに組んだ熱い芝居に心震える。

31 海鳴りにもののふの詩が\* '81年 演出:植田紳爾 主演:瀬戸内美八、東千晃。日本への帰国の途中、最後の寄港地マニラで1年以上も引き留められていた支倉常長一行は、更に1年の延長を余儀なくされ、乗員たちに不満が蔓延していた。家来の一人早瀬は常長の真意を測るため、イスパニア総督の娘に偽りの恋を仕掛ける。それを知った常長はイスパニア総督の許しがあったにもかかわらず、武士にあるまじき行為をした早瀬に自決を命ず。「自死を禁じるキリシタンの考え方」と、「主人への忠誠心こそ第一義考える武士道の価値観」の板挟みの中で何を選択したのか…

## 宙組

1 アナスタシア ★★ '21年 演出:稲葉太地 主演:真風涼帆、星風まどか。20世紀フォックスのアニメ映画「アナスタシア」を基に制作されたブロードウェイミュージカルの宝塚版。映像と舞台のコラボが秀逸。一幕ラスト、真風涼帆と星風まどかが歌う「過去への旅♪」の伸びやかなメロディーに感動!宝塚以外でも上演されればSOLD OUTの人気作。タイトル・ロールの星風まどかにとっては、この作品が宝塚での代表作と言えよう。

2 パパ・アイ・ラブ・ユー(専科公演) '19年 脚本・演出:石田昌也 演出:大野拓史 主演:轟悠。レイ・クーニー原作の喜劇「IT RUNS IN THE FAMILY」の宝塚版。クリスマスイブの大病院の医師談話室。大切な講演会での発表を1時間後に控えた医師デーヴィッドの前に18年前に別れた恋人が突如現れ、間もなくここに貴方の息子がやって来ると告げる。妻に知られたくないデーヴィッドは行き当たりばったりの画策で、周りの人間を巻き込み大騒動に。デーヴィッドを演じる轟悠と友人医師を演じる専科の悠真倫の掛け合いが息ぴったりで、膨大なセリフの応酬は流石ベテランと感心させられる。

3 クラシカルビジュ(ショー) ★ '17年 演出:稲葉太地 主演:朝夏まなと。朝夏まなとの退団公演だけあって、組子全員の朝夏への強い思いが凄く熱量となって客席に迫っ

て来る。全員参加のプロローグの迫力、フィナーレ群舞のシンプルな黒燕尾の清廉さ。観劇後も「♪クラ～シカル～ビジュア～♪」というメロディーが頭から離れない。

4 パーシャルタイムトラベル～時空の果てに\* ★ '17年 演出：正塚晴彦 主演：桜木みなど、星風まどか。タイムトリップを繰り返す青年ジャンと中世の王女に仕える侍女テスの不思議で可愛い恋物語。侍女テス役の星風まどかが王女シャーロット役の遥羽ららの二つ後輩ということ踏まえた上で、二人のやり取りを見ると吹き出してしまうシーンが多々ある！遥羽ららがいい味を出している。

5 相続人の肖像\* '15年 演出：田淵大輔 主演：桜木みなど、星風まどか。死亡した父の遺言では、屋敷以外の財産をすべて後妻とその連れ子に譲るとある。実母の死後、愛人を後妻に迎えた父を嫌い、さらにその後妻をも憎んでいた相続人は屋敷から彼女らを追い出そうとするが、その連れ子への恋心が芽生え始める。桜木みなどがクールでかっこいい。

6 モンテ・クリスト伯 '13年 演出：石田昌也 主演：鳳稀かなめ、実咲凜音。デュマ原作の「巖窟王」の宝塚版。さすがデュマの傑作小説。最後の最後まで息つく暇も無く、ぐいぐいと引き込まれる復讐劇は衝撃のラストに啞然とする。2022年、星組、礼真琴と舞空瞳による再演も必見。

7 THE SECOND LIFE\* ★★ '07年 演出：鈴木圭 主演：北翔海莉、和音美桜。マフィアが経営するシチリアのホテルで展開されるラブコメディ。死んだ恋人が乗り移ったマフィアの青年との恋の行方は？北翔と和音の歌唱力が素晴らしく、特に後半、北翔海莉のピアノ弾き語りのシーンは感動的。カーテンコールの熱狂ぶりは凄い。

8 バレンシアの熱い花\* '07年 作・演出：柴田侑宏 演出：中村暁 主演：大和悠河、陽月華。19世紀初めのスペイン・バレンシア地方を舞台にした、肉親を殺された者たちの復讐劇。オープニング、真っ赤な背景に浮かぶ黒い人影が印象的。フラメンコ衣裳を完璧に着こなすイサベラ役の陽月華のダンスシーンに思わず見とれる。特に登場シーンは必見。

9 炎にくちづけを「イル・トロヴァトーレ」より ★★ '05年 演出：木村信司 主演：和央ようか、花總まり。「アイーダ」の作者ヴェルディの傑作オペラが原案。絶頂期の和央と花總だからこそ出来た本格的な「宝塚オペラ」の傑作。とにかく二人の歌の迫力に圧倒される。宝塚がここまで骨太な作品を出してくるとは！ 観終わった後、思わず絶句してしまった。

10 Le Petit Jardin～幸せの庭\* ★ '05年 演出：植田景子 主演：悠未ひろ、和音美桜。先代シェフの味を守ろうとする支配人アランに対して、突如現れた先代の娘セルは相続人としての権利を主張し、お店の運営方法はすべて自分が決めると言い出した。先代の古いやり方をことごとく否定する彼女に対してアランが取った解決策とは？ 和音美桜の抜けるような歌声に感動。

11 BOXMAN～俺に破れない金庫など無い\* '04年 演出：正塚晴彦 主演：和央ようか、花總まり。主役二人が菊田一夫演劇賞受賞の名作。金庫製造会社に勤める金庫開け名人ケビンとその同僚ドリーがライバル会社との争いで活躍する企業物ラブコメディ。ドリーに言い寄る成金紳士ディケンズ役の寿つかさと、ケビンが勤める金庫メーカーの技術者ロジャー役の未沙のえるのバイプレーヤーとしての演技が出色で、間の取り方、台詞回し、表情、動きがコミカルで、客席の笑いをかささらった。

12 鳳凰伝～カラフとトゥーランドット '02年 演出：木村信司 主演：和央ようか、花總まり。プッチーニのオペラ「トゥーランドット」のベースとなったカルロ・ゴツツィの寓話劇を1934年、白井徹造が作品化した。演出家の木村信司が日本演劇協会賞受賞。絶世の美女にして残酷な王女トゥーランドットを花總まりが熱演。花總の女優としてのスケールの大きさをまざまざと見せつけた中国物オペラの傑作。

13 エイジ・オブ・イノセンス～美德の微笑 '02 演出：植田景子 主演：椿火呂花、ふづき美世、美羽あさひ。原作は女性初のピューリッツァー賞受賞者イーディス・ウォートン。1870年代のニューヨークの上流社会が舞台。青年弁護士・ニューランドと名家の令嬢メイの婚約発表の晩餐会に、メイのいところでニューランドの幼馴染・エレンが現れる。エレンは伯爵である夫との離婚協議中であつたが、ニューランドはメイの親族から、エレンが離婚を諦めるよう説得してくれと頼まれる。しかし、エレンを説得に行ったニューランドは婚約者のメイと全くタイプの異なる自由奔放なエレンに惹かれ、メイとエレンの間で心が揺れ動く…。3人の会話のやり取りが絶妙で、心理描写に感心させられる名作。

14 激情～ホセとカルメン ★ '99年 脚本：柴田侑宏 演出：謝珠栄 主演：姿月あさと、花總まり。プロスペル・メリメ原作の「カルメン」より。芸術祭優秀賞受賞作品。人は何のために生きるのかというテーマをホセとカルメンの激しくも悲しい愛で芸術的に描き切った傑作。カルメン役の花總の演技が凄い。

15 TEMPEST～吹き抜ける九龍\* '99年 演出：齋藤吉正 主演：湖月わたる、陵あきの。シェイクスピアの戯曲「テンペスト」を第二次大戦後の香港は九龍に舞台を移して再構築したハードボイルド・ミュージカル。大嵐で遭難し過去の記憶を失ったファーディナンドと、同じ嵐で生き別れ視力を失った恋人ミランダ、そしてミランダを愛人として囲うプロスペローの紆余曲折の恋愛模様と過去からの因縁が濃密に描かれる。シェイクスピアの戯曲をベースにしながらも、主人公二人の恋愛を宝塚風にうまくアレンジした脚本は秀逸。一途な愛を失わない健気な盲目の女性ミランダを陵あきのが好演。

16 エリザベート～愛と死の輪舞 ★★ '98年 脚本・作詞：ミヒャエル・クンツェ 音楽・編曲：シルヴェスター・リーヴァイ 潤色・演出：小池修一郎 主演：姿月あさと、花總まり。楽曲がとにかく素晴らしく、唯一無二の世界観に圧倒される。花總まり、白城あやか、愛希れいか、実咲凜音など、歴代エリザベートが歌う「私だけに♪」の聴き比べで、何度でも楽しめる再演物の代表格。歴代トートは初演が一路真輝、その後、麻路さき、姿月あさと、春野寿美礼、彩輝直、水夏希、瀬奈じゅん、明日海りお、朝夏まなと、珠城りょうの10人が演じていて、それぞれの個性が見どころの一つ。今回選んだ姿月あさとの役作りは、その強さと激しさが特徴。「エリザベート」の申し子、花總まりの極上の演技も見逃せない。

17 シトラスの風(ショー) ★★ '98 演出：岡田敬二 主演：姿月あさと、花總まり。宙組誕生を飾る記念すべきショー。テーマ曲「シトラスの風♪」に乗ってのオープニングはこれぞ宝塚という華やかなダンスシーン。続く「花占い」のシーンは花總まりのコミカルでキレキレの演技が微笑ましい。中盤の「プッチーニ・私のお父さん♪」の歌唱はそれとは真逆の本格的な歌唱。花總の演技力と歌唱力の幅を感じさせる。後半、全組子による「明日へのエネルギー♪」では新生宙組の若々しいパワーが爆発する。初演後は、2014年 凰稀かなめ・実咲凜音、2015年 朝夏まなと・実咲凜音、2018年 真風涼帆・星風まどかで再演され、宙組を代表するショーとなった。